

平成30年度 杉並区立西田小学校 第2回 学校運営協議会

- ・日時 平成30年5月21日（月） 16時45分から18時30分
- ・出席者 諏訪会長、成田職務代理、【委員】恵羅、武井、中澤、渡邊、目黒、望月、檜枝（記録作成）、小堂校長 【教育委員会】小林、森 【事務局】新井副校長
- ・配布資料 資料1 平成30年度第2回学校運営協議会次第
資料2 平成30年度第1回学校運営協議会記録
資料3 持続可能な社会づくりに向けた教育についてのアンケート（第2回）
資料4 教育活動の様子
資料5 つながり、問い合わせ、ふりかえりの詩

1 会長挨拶

- ・西田小に来てから2年になる。この二年間順調にいい学校になってきていると感じる。
- ・資料3「持続可能な社会づくりのアンケート」をみると素晴らしい成果があがっている。とくに、学年が上がるにつれて自主的に参加しようとしていることはすばらしい。
- ・前回の協議会記録をみて改めて思うことは「今後SDGsが推進されるようになる」ことだ。西田小のユネスコスクールをさらに進めるために、どうすればよいか考えていた。本日の次第4「学校運営協議会の運営方針について」で私の考えを述べる。

2 校長挨拶

- ・社会科教員の集まりでもESDが話題になるようになったが、SDGsの認知は十分でない。本校はESDからSDGsをターゲットとして進化しつつある。ユネスコスクール nishitaを充実して、杉並ひいては全国の教育のモデルとなるようにしたい。

3 前回の協議会記録について

- ・資料2「平成30年度第1回学校運営協議会記録」を承認。

4 学校運営協議会の運営方針について

4-1 資料3「持続可能な社会づくりに向けた教育についてのアンケート（第2回）」についての説明があった。

4-2 学校運営協議会の運営方針についての協議

会長から以下の説明があった。

持続可能な社会づくりのアンケートを見ると、学年が上がるごとに「よい」結果が多くなっている。ただ、よく見るとクラス差があり、良い結果ばかりではない。杉並区としてはどのクラスもよい結果となることが望ましい。教員の異動を見た際、ユネスコスクールの推進をするうえで推進者となる教員も入ってきている。頼もしい限りだ。

- ・コミュニティースクールのパンフレットの学校運営協議会の役目によれば、東京都教育委員会へ人事に関する具申ができる。この西田小がより充実したものにするような人事を運営協議会としてもお願ひできないかと思う。

- ・次の人事は6月ごろから始まるそうだ。時機を逸せず、西田小の教育活動を充実できるような人事に関して、運営協議会として有効な発信の具体策を模索したいと考える。

会長の説明を受けて以下の質疑が行われた。

- ・ユネスコスクール推進となる教員2名はどうやって入ったのか
 - ⇒ 教育委員会にヒヤリングを通してユネスコスクールの推進を人事構想としてお願いした。
- ・学校運営協議会が教員人事に関してどのようにかかわるのかに関して以下の意見等が出た。
 - ⇒ 学校運営協議会枠の公募ができる。その他杉並区では「このゆびとま」もある。
 - ⇒ 校長と学校運営協議会が相談し意見一致したのち、氏名無記名で人事構想を提案することができる。
 - 学校運営協議会に設置された学校へ異動した教員は、次回も学校運営協議会の学校へ異動することができる。うまく活用してほしい。
 - ⇒ ESDばかりの教員が増えるのはどうか、まずは教員と懇談が先ではないか。
 - ⇒ ユネスコスクール同士で人事交流ができれば無理がないのではないか。学校運営協議会同士、ユネスコスクール同士で行えば包括的なものになるのではないか。
 - ⇒ ESDを知らない先生が異動した際、慣れるまで時間がかかる。そうだとしたらある程度知っている教員が入るのはよいのではないか。また、中堅教員が少ないので配慮したいが取り合い状況ではないか。
 - ⇒ こうあってほしいという抽象的なものを取りまとめればいいのではないか。
 - ⇒ 地域住民ではESDはまだ聞いて新しいものと思う。このESDが社会の中でどのような価値があるのか、もう少し詳しく知りたい。
 - ⇒ 新学習指導要領の前文にも「持続可能な社会の創り手を育てる」が出てきていて企業もSDGsが重視されている。西田小の取組はその最先端である。
 - ⇒ ESDを推進した八名川小校長は8年間校長をしている。その本にもESDに取り組めば学力はあとからついてくる、また様々な教科を横断して学ぶことは大切だと文科省も言っている。その点からもESDを軸に教育を進めていくことは的を射ているのではないか。ドリル的な学習より子供たちの主体的な学びを推進する大切さを世の中には感じ始めている。
 - ⇒ 西田小のグラフを見ても良い結果になっている。この教育活動・教育方針を推進する上で教員人事の要望をしていくことは大切なのではないか。
 - ⇒ ノウハウが分かっている（要領を得た）先生が入ってくれれば心強い。若手教員が多い中、中堅教員がはいれば学校としてもまとまっているのではないか。
 - ⇒ ESDは始まったばかりなので経験者も少ないことから、できれば経験者が入ってくることは好ましい。
 - ⇒ ESDが一番遅れているのは中学だが、教科横断的な研究を進めている学校では教員の能力も向上している。
 - ⇒ 西田小に務めている教員はまさにESDの経験者である。この教員をいかに育成するかも合わせて考える必要があるのではないか。だれでもできる教育を組織的に行うことが大切。
 - ⇒ （校長）本校では多くの教員がESDを口にする。教員の資質能力は2、3年前から比べると格段に向上した。ESDを知るものは働き方も変える。
 - ⇒ ESDは教育の本質を見直すものである。

- ⇒ どういう学校が教員を育てているかは、「互いに学び合おうとする」雰囲気のある学校である。やはりリードする教員も中にはいてほしいということだ。
- ・来年度の人事について要望を出すのであれば早いほうが良い。要望が有効になるプロセスは？
- ⇒ 一部動き始めている。私学では公立よりも採用が早まっている。できるなら6月でまとまるといいのではないか。
- ・たたき台はどうやってつくのか？
- ⇒ 会長を中心にして作るのが良い。

4-3 教員との交流会について

6月20日（水）の校内研究会のあと、諏訪会長がESDについてワークショップを行う。その会に学校運営協議会委員に参加してもらい、意見交流することをまずやってみてはどうか。委員全員でなくとも参加可能な委員で始めるのが良い。

6 その他・事務連絡

- 6-1 資料5「つながり、問い合わせ、ふりかえりの詩」を成田職務代理が朗読してから説明があった。
- ・詩は「深いふりかえり」「つながりへの気づき」「永続的な問い合わせ」の3ポイントを頑張ろうと呼びかけている。
 - ・参考1はSDGsができた流れが分かるようにしてある。17の課題が大切であること。
 - ・参考2「ジョン・ハティーのインパクト」は、日本あまり注目されていないが、欧米では学習効果の量的研究の基本的な資料として定着している。この「学習の効果」「教育の効果」に関する量的研究が成田の質的な研究と結論が一致したことは重要である。

6-2 以下の紹介と質疑があった。

- ・学校支援本部の活動報告
- ・にしたのおか（PTA）
- ・荻窪地域区民センター協議会「さいえんす縁日」開催のお知らせ
- ・杉並区青少年委員のパンフレット
- ・西荻で起きた強盗事件への下校対応についての質疑

6-3 次回の学校運営協議会予定

6月18日（月）16：30～18：30